

第9回

ちばコラボ大賞

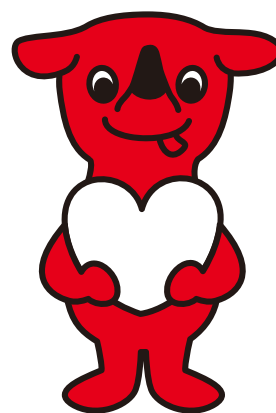
表彰事例の紹介



県内には、福祉や環境、子育て、まちづくりなどのさまざまな分野で、市民活動団体が地縁団体、企業や学校、行政機関等と連携して地域の課題解決に取り組むことで、成果を上げている事例がたくさんあります。

県では、そのような連携事例の中から、他のモデルとなるような優れた事例を「ちばコラボ大賞(千葉県知事賞)」として表彰しています。

第9回目となる令和元年度は、県内各地から7件の応募があり、審査の結果、3件を表彰事例に決定しましたので御紹介します。



千葉県マスコットキャラクター
「チーバくん」



表彰式

令和元年度ちばコラボ大賞表彰式は令和元年12月18日に千葉県庁で開催されました。

表彰式では、富塚環境生活部長から表彰事例の代表者に賞状が贈られたほか、チーバくんも加わり記念撮影が行われました。

富塚環境生活部長からは、「どの取り組みも、地域の様々な方々が連携して取り組んでくださっている、そして県内どこでも直面する課題を取り上げてくださっています。多くの方々の参考になる、力をもらえる事例になると期待しております。」とメッセージが送られました。



表彰事例記念写真の様子



審査委員長 鎌田 元弘 氏

審査委員長からの講評

それぞれ、いいところの観点が異なっており、甲乙つけ難く大変厳しい審査でした。コラボを実行するのは大変ですが、楽しそうに実行することが大切です。プレゼンテーションで気持ちをどう受け止めるかが審査のポイントになりました。

千葉県にコラボ大賞ありということ、皆様の受賞を通して、多くの県民の皆様にお伝えいただければと思います。本日はおめでとうございます。

表彰事例

1

いきいき生きがいプロジェクト@いちかわ

～春輝祭・秋輝祭(介護予防・認知症予防のためのイベント)～【市川市】

いちかつ ☺ / 市川市リハビリテーション協議会 / シニア劇団「波瀾ばんばん座」 / すこんてい / ライラック / 鍼灸マッサージ ここから / 学校法人千葉学園 千葉商科大学 / イリデセンス (大人のおしゃれレッスン) / いちかわITインストラクターズ / 行徳プラチナ

● コラボのきっかけ

介護予防・認知症予防のため、代表である認知症予防専門士の方が、作業療法士、健康運動指導士、行政書士といった専門職の方々へ声をかけ、いきいき生きがいプロジェクトを結成。ここに来れば体が、脳が、心が若返る、つい足を運びたくなる介護予防・認知症予防のイベントを開催しています。

● 事業の内容

おしゃれをした後にプロカメラマンによる写真撮影を行い、みんなで見せ合ったり、身体機能をチェックしたら次回のイベントで再測定して結果を比較したり、元気な高齢者の演劇やピアノ演奏活動を見て、自分もやってみようと思ってもらったり、何回も参加したくなるような、地域への参加へつなげるような企画をしています。

また、地域住民、企業等とコラボすることで、高齢者への理解を促進。高齢者が買うもの・行く場所がないという問題解決につなげ、お出かけしやすい環境を整えることで、街に繰り出す機会を増やし、高齢者の認知症予防だけでなく街の活性化にもつなげ、「いつまでもいきいき暮らせる街いちかわ」を目指しています。

評価のポイント!

4人という少人数のコアメンバーでありながら、多様な団体を巻き込んでいる点が評価されました。おしゃれというわかりやすい切り口で事業を拡大していて、街全体の介護予防・認知症予防へと発展しています。



やちまたふくしフェスタ2018 かんじる・つながる・うまれる【八街市】

やちまたふくしフェスタ2018実行委員会/やちまた若者サミット/地域を健康から豊かにする団体tocoS/
ボランティア楽団和音/絵本作家 中澤 久美子/点字ボランティアともしび/手話サークルてのひら/
八街おもちゃ病院/千葉ホークス/他29団体

●コラボのきっかけ

「障害があってもなくても暮らしやすいまちづくりのきっかけを作りたい」「誰もが取り残されることのない共生社会を目指したい」との想いから、障害福祉に関わる社会福祉法人やNPO、企業などが主体となり、やちまたふくしフェスタ実行委員会を組織し、参加型・体験型のイベント「やちまたふくしフェスタ」を開催しています。

●事業の内容

年1回、八街市中央公民館を全館貸し切り、障害者スポーツ体験をはじめ、物販、作品展、講演会など、様々なイベントを実施しています。

障害児者とその家族、支援者、地域住民が世代を超えて交流し、「楽しむ」を共有・共感できる場づくりを行うことで、参加者に自然なかたちで障害福祉への理解を深めてもらうとともに、障害児者の社会参加の場や機会にもなっています。

「やちまたふくしフェスタ」への参加を通じて、様々な分野の団体や企業、飲食店などがつながり、障害福祉の枠を超えた地域づくりや活動へと発展してきており、若者が主体的に地域の課題に目を向け、協働しながら課題解決に取り組む起点にもなっています。



評価のポイント!

障害福祉という枠組みに捕らわれず、多様な団体と連携することで、障害福祉の枠組みを超えて、若者自らが自分たちの街づくりを考えるという姿勢が評価されました。プレゼンテーションでも若い方のエネルギーを特に感じました。

お仕事フェスタinゆうまつど ~自分らしい働き方と出会える場所~【松戸市】

NPO法人MamaCan/NPO法人子育て支援まこら/NPO法人子育てひろばまわいまわ/松戸市(総務部男女共同参画課)/
松戸公共職業安定所/NPO法人まつど自閉症センター生活介護事業所ふれんず/社会福祉法人まつかぜの会豆のちから/
社会福祉法人松戸市社会福祉協議会/株式会社グランバー東京ラスク/有限会社平林看護婦家政婦紹介所/他2団体

●コラボのきっかけ

松戸市の30～44歳の女性の就業率は全国と比較して約5%低くなっています。NPO法人MamaCanから「働きたい女性のためになにかできないか?」と松戸市や市内NPO等に呼びかけコラボが実現、お仕事フェスタinゆうまつどを開催しました。

●事業の内容

「働き方を決めていない」「保育や介護など身の回りの環境を整えてから働きたい」といったニーズに応えるべく、行政や民間といった枠にとらわれず、就労相談や市の子育て事業の案内、ファイナンシャルプランナーによるマネー相談など多方面での相談体制を整え、女性の悩みや不安をワンストップで解消しました。また、小さなお子さんがいらっしゃる女性も参加しやすいように、お子さんの一時保育を実施したり、各部屋にキッズスペースを設けるなどの配慮もしました。

コラボにより、お互いのネットワークを活かした広報ができたとともに、市の施設を会場としたことで、主催団体はイベント来場者に安心感を持ってもらうことができ、市は施設のPRやイベント開催にあたっての女性目線を知ることができました。



評価のポイント!

今の社会の現状と課題を適切に把握されている事例です。母親支援の当事者団体が、行政をうまく巻き込んでいて、お互いの強みを活かした先進的、モデルになる連携事例であると評価しました。

令和元年度ちばコラボ大賞 応募事例

※表彰事例を除く

浦安を芝桜の美しい街にしよう (2020年の春までに1万株の芝桜を増やす) [浦安市]



東日本大震災で液状化被害をうけた浦安市。地域住民の元気を取り戻すべく、芝桜de花のまちづくりin浦安が中心となり、自治会や学校と連携して芝桜を植栽。景観美化や地域コミュニティ活動の活性化に繋がっています。

フェアトレードちば フェアトレードによる世界と地域の街づくり [千葉市]



フェアトレードという国際的なイメージですが、福祉作業所や地元の商店等と連携して「ウェルフェアトレード」、「ローカルフェアトレード」の推進にも取り組んでいます。グローバルとローカルの双方向から豊かな社会づくりを行っています。

Chibaクリーンアクション [館山市]



千葉大学環境ISO学生委員会、たてやま・海辺の鑑定団、京葉銀行のコラボ。沖ノ島周辺で、アマモ場の減少やごみ問題解決のため、千葉大学の落ち葉で作った堆肥でアマモの苗床をつくったり、総勢140人名で海岸清掃を行ったりしています。

ちよこっと体操、ちよこっとおしゃべり、 ちよこっと健康 [四街道市]



千代田地区で健康体操、高齢者サロンを運営するちよこっとクラブが地域の団体と連携協力を図り、それぞれの団体で中高生の居場所づくりや他地域での健康づくりに取り組んでいます。それら取組を通して豊かな地域コミュニティづくりを進めています。

令和元年度 スケジュール

- | | |
|---------|-------------|
| 6月～ 8月 | 連携事例の募集 |
| 9月～10月 | 事務局による1次審査 |
| 10月～11月 | 審査委員による2次審査 |
| 12月 | 表彰式 |

※令和2年度の募集も、6月頃から開始する予定です。

第9回 ちばコラボ大賞 表彰事例紹介リーフレット

令和2年3月 編集・発行

千葉県環境生活部県民生活・文化課

〒260-8667千葉県千葉市中央区市場町1-1

TEL:043-223-4133 FAX:043-221-5858

Email:npo-vo@mz.pref.chiba.lg.jp